

<b>Title</b>	著訳者紹介
<b>Author(s)</b>	聖学院大学総合研究所
<b>Citation</b>	聖学院大学総合研究所紀要, No.55, 2013.3 : 9-14
<b>URL</b>	<a href="http://serve.seigakuin-univ.ac.jp/reps/modules/xoonips/detail.php?item_id=4685">http://serve.seigakuin-univ.ac.jp/reps/modules/xoonips/detail.php?item_id=4685</a>
<b>Rights</b>	



聖学院学術情報発信システム : SERVE

SEigakuin Repository and academic archiVE

## 〔著 訳 者 紹 介〕

(掲載順)

阿久戸 光晴 あくど・みつはる

1951年生まれ。一橋大学社会学部・法学部卒。住友化学工業株式会社勤務を経て、東京神学大学博士課程前期修了後、米国エモリー大学神学部大学院ほか。その傍ら聖学院大学及び聖学院アトランタ国際学校開設業務を担当。その後聖学院大学宗教主任兼助教授を経て、現在、学校法人聖学院理事長兼院長・聖学院大学学長兼教授。その他日本聖書協会新翻訳事業検討委員、荒川区不正防止委員会委員長など。

〔著書〕『近代デモクラシー思想の根源』、『説教集 新しき生』、『ヴェーバー・トレルチ・イエリネック』(共著)、『神を仰ぎ人に仕う』(共著)、『キリスト教学校の形成とチャレンジ』(共著)ほか、著書・論文多数。

高橋 義文 たかはし・よしぶみ

1943年生まれ。東京神学大学大学院博士課程修了。神学博士(東京神学大学)。三育学院短期大学教授、学長を経て、現在、聖学院大学大学院・総合研究所教授。

〔著訳書〕『キリスト教を理解する』、『教育の神学』(共著)、『ラインホルド・ニーバーの歴史神学』、『ティリッヒ研究』(共著)、チャールズ・C・ブラウン『ニーバーとその時代』、ジョン・ウィッテ『自由と家族の法的基礎』(共監訳)、ラインホルド・ニーバー『ソーシャルワークを支える宗教の視点』(共訳)ほか。

左 近 豊 さこん・とむ

1968年生まれ。学習院大学文学部史学科卒。東京神学大学大学院神学研究科博士課程前期課程修了(神学修士)。米国コロンビア神学大学院Master of Theology課程修了(Th.M)。プリンストン神学大学院Doctor of Philosophy課程修了(Ph.D)。現在、聖学院大学人間福祉学部副チャプレン、准教授。専攻は旧約聖書学。

〔著書〕*Fire Sent From Above: Reading Lamentations in the Shadow of Hiroshima-Nagasaki.*

〔訳書〕J.L.メイズ『現代聖書注解 詩編』(日本基督教団出版局, 2000年, 2010年重版), W.ブルッゲマン『聖書は語りかける』(日本キリスト教団出版局, 2011年), F.W.ダブス=オルソップ『現代聖書注解 哀歌』(日本キリスト教団出版局, 2013年)。

〔論文〕「アモス書『諸国民への託宣』における文体の研究」『神学』第57号(1995年)、「ヨブ

記におけるゴーエールとは？」(大野恵正他編『果てなき探求』教文館, 2002年), 「海のように深いあなたの傷を, 誰が癒せるだろうか? —旧約聖書『哀歌』第2章の文学的研究」『聖学院大学論叢』第21巻(2009年), 「苦難としての恥—哀歌第1章の文芸学的研究」『聖学院大学論叢』第22巻(2010年), 「なぜ日本に聖書学が必要か」『聖学院大学総合研究所紀要』第47号(2010年), 「ご覧ください, 主よ! 哀歌第1章1-11節」, アレテシア特別増刊号『危機に聴くみ言葉』(2011年), 「哀しみのロゴス化—旧約の嘆きに学ぶ」『学校伝道研究会紀要』第20号(2012年), 「3・11以降をどう生きるか—聖書の語りかけに聴く」『キリスト教と諸学』27巻(2012年)。

申 玉 秀 シン・オクス (부교수 신옥수 Ok-Su Shin)

長老会神学大学校教授。組織神学, Ph.D.

全南大学校独語ドイツ文学学科 (B.A.), 長老会神学大学校進学大学院 (M.Div.), 長老会神学大学校大学院 (Th.M.), 米国, Princeton 神学校 (Th.M.), Fuller 神学校 (Ph.D.)

[著書] 『삼위일체론의 역사 (三位一體論の歴史)』(서울: 대한기독교서회, 2008) (共著, ソウル: 大韓基督教書会, 2008), 『교회론 (教会論)』(서울: 대한기독교서회, 2009) (共著, ソウル: 大韓基督教書会, 2009), 『성령과 기독교신학 (聖霊とキリスト教神学)』(서울: 대한기독교서회, 2010) (共著, ソウル: 大韓基督教書会, 2010) 『신론 (神論)』(서울: 대한기독교서회, 2012) (共著, ソウル: 大韓基督教書会, 2012), 『에큐메니즘: A에서 Z까지 (エキュメニズム: AからZまで)』(서울: 대한기독교서회, 2012) (共著, ソウル: 大韓基督教書会, 2012)。

[訳書] 카를·발트 『바르트 교회교의학 개관 (バルトの教会教義学概観)』(서울: 크리스찬다이제스트사, 1994) (ソウル: 크리스찬다이제스트社, 1994), Stanley J. Grenz 『조직신학: 하나님의 공동체를 위한 신학 (組織神学: 神の共同体のための神学)』(고양: 크리스찬 다이제스트사, 2003) (코ヤン: 크리스찬다이제스트社, 2003), Daniel L. Migliore 『기독교조직신학개론-전면개정판 (キリスト教組織神学概論—全面改定版)』 신옥수·백충현 역 (申玉秀·白忠鉉 共訳) (서울: 새물결플러스, 2012) (ソウル: 세물결플러스, 2012)。

洛 雲 海 ナグネ

韓国・長老会神学大学校助教授 (組織神学), 神学博士 (長老会神学大学校)。

ソウル・セムナン教会 (大韓イエス教長老会統合) 協力牧師。

1964年東京生まれ。東京神学大学大学院修士課程卒。延世大学校韓国語学堂卒。長老会神学大学校大学院博士課程卒。

[論文・訳書] 「일본교회에서 “디아코니아” 신학과 실천 (日本の教会における「ディアコニア」神学とその実践)」(제6회 소망신학포럼, 2007年), 「일제시대에 있어서 일본의 지적 상

황의 한 단면—니시다 철학과 그리스도교에 관련하여—「日帝時代における日本の知的状況の一断面—西田哲学とキリスト教に関連して」(『기독교사상과 문화』, 2008年), 『キリスト者必須の正しい理解』(訳)ほか, 論文翻訳多数。

藤原 淳賀 ふじわら・あつよし

1965年岡山市生まれ。聖学院大学総合研究所教授。東京基督教大学専任講師(2000-4), 聖学院大学総合研究所助教授, 准教授, を経て現職。Ph.D. (University of Durham, England); M.Div. (Golden Gate Baptist Theological Seminary); 教育学修士(慶応義塾大学大学院)。研究領域はキリスト教神学・倫理学。

〔著書・論文〕*Theology of Culture in a Japanese Context: A Believers' Church Perspective*, Princeton Theological Monograph Series (2012); “The Challenge of Yoder and Hauerwas' Theology in the Japanese Context”; 『ジョン・H・ヨーダーの神学：平和を作り出す子羊の戦い』(共著), 「キリスト者と戦争：歴史的概観と今後の課題」, 「ダビデ：神への恐れと信頼」他。

金 恩 恵 キム・ウネ (김은혜 Un-Hey Kim)

長老会神学大学校助教授。キリスト教倫理学。

1963年生まれ。ソウル女子大学校経営学科, 長老会神学大学校神学大学院卒業, 米国, Drew University (S.T.M.), 米国, Claremont Graduate University (Ph.D.)。

〔著書〕『생명신학과 기독교 문화 (生命神学とキリスト教文化)』(쿰란, 2006) (クムラン: 2006), 『교회와 사회 (教会と社会)』(기독교윤리실천협의회, 2003) (基督教倫理実践協議会, 2003), 『이주민 신학과 선교 (移住民の神学と宣教)』(한국장로교출판사, 2011) (韓国長老教出版社, 2011) ほか。

高 萬 松 こう・まんそん

1953年生まれ。東京神学大学大学院博士前期課程修了。聖学院大学大学院博士後期課程修了, 博士(学術)。現在, 聖学院大学総合研究所助教。

〔著書〕『포사이스의 신정론 (フォーサイスの神義論)』(基督教連合新聞社, ソウル, 2007年), 『歴史と神学』(共著, 聖学院大学出版会, 2006年), “Japanese and Korean Church Relations from 1945 to 1967: The Path to Reconciliation,” A. Fujiwara and B. Byrd eds., *Post-disaster Theology from Japan* (Seigakuin University Press, 2013)。

〔訳書〕『바른기도와 그 열매 (正しい祈りとその実り)』(大韓基督教出版社, ソウル, 1999年, P. T. Forsyth, *The Soul of Prayer* の韓国語翻訳), 『청교도』(基督教連合新聞社, ソウル, 2010年, 大木英夫『ピューリタン』の韓国語翻訳)。

〔論文〕「P. T. フォーサイスとピューリタニズム」(日本ピューリタニズム学会『ピューリタニズム研究』2, 2008年), 「初期韓国教会とピューリタニズム」(日本ピューリタニズム学会『ピューリタニズム研究』4, 2010年), 「1970年代韓国教会の社会参与に関する神学の考察」(『聖学院大学総合研究所紀要』52, 2012年), 「日韓会談反対運動と日韓教会交流」(『聖学院大学総合研究所紀要』53, 2012年) ほか。

松尾 秀哉 まつお・ひでや

1965年生まれ。一橋大学社会学部卒。東邦ガス株式会社, 株式会社東海メディカルプロダクツ勤務を経て, 2007年3月東京大学大学院総合文化研究科博士課程修了。博士(学術)。現在, 聖学院大学政治経済学部准教授。専攻はベルギー政治史, 比較政治学, キリスト教民主主義論。

〔著書〕『ベルギー分裂危機——その政治的起源』(明石書店, 2010年), 『模索する政治——代表制民主主義と福祉国家のゆくえ』(共著, ナカニシヤ出版, 2011年), 『紛争と和解の政治学』(共編, ナカニシヤ出版, 2013年)。

〔論文・翻訳〕キャロル・マーシオン(松尾秀哉訳)「政党派閥と連合政権——イタリア・キリスト教民主党における閣僚ポストの配分」『レヴァイアサン』第29号(2001年秋), 「コンセンサス・デモクラシーにおける『ワンマン』型リーダーの台頭」日本比較政治学会編『日本比較政治学会年報 第10号 リーダーシップの比較政治学』(早稲田大学出版部, 2008年), 「ベルギー分裂危機とブリュッセル周辺域の民族問題——『国家政治の縮図』から『都市政治の復権』へ」日本比較政治学会編『日本比較政治学会年報 第12号 都市と政治的イノベーション』(ミネルヴァ書房, 2010年) など。

宮本 悟 みやもと・さとる

1970年生まれ。1992年同志社大学法学部卒業。1999年ソウル大学政治学科修士課程修了〔政治学修士号〕。2005年神戸大学法学研究科博士後期課程修了〔博士号(政治学)〕。日本国際問題研究所研究員を経て, 2009年より聖学院大学総合研究所准教授。専攻は政軍関係論, 安全保障論, 朝鮮半島研究。

〔最近の著書・論文〕「朝鮮民主主義人民共和国における国防政策の目的——朝鮮労働党の軍事路線の成立経緯——」『国際安全保障』第40巻第1号(2012年6月) pp.1-18, 「国際的制裁と対外政策」中川雅彦編『朝鮮労働党の権力後継』(アジア経済研究所, 2011年10月) pp.25-49, 「일본의 대북원조와 제재 (日本の対北援助と制裁)」『일본공간 (日本空間)』第9集(2011年5月) pp.154-193, “DPRK Troop Dispatches and Military Support in the Middle East: Change from Military Support to Arms Trade in the 1970s,” *EASTASIA*, Volume 27, Number 4 (November, 2010) pp.345-359 など。

村松 晋 むらまつ・すすむ

1970年11月生。2000年3月、筑波大学大学院博士課程歴史・人類学研究科修了，博士（文学）。現在，聖学院大学人文学部日本文化学科准教授。専攻は近代日本思想史，精神史。近著に「松田智雄の思想——歴史とプロテスタンティズム——」（『ピューリタニズム研究』第5号，日本ピューリタニズム学会，2011年），「坂口安吾——墮落論の射程——」（『南原繁と日本国憲法』，Editex社，2011年），「吉満義彦の人間観——『近代の超克』と〈ヒューマニズム〉——」（『聖学院大学論叢』第24巻第2号，2012年）など。

田中 佳 たなか・けい

一橋大学社会学部，パリ第一大学大学院考古学・美術史研究科を経て，2009年3月，一橋大学大学院社会学研究科博士後期課程修了。博士（社会学）。一橋大学大学院社会学研究科特別研究員，聖学院大学政治経済学部ほか非常勤講師。2013年4月より徳島大学総合科学部准教授。専攻は近世フランス文化史・美術史。

〔論文〕「美術における『公衆』の誕生——1740年代後半の論争を中心に」『一橋論叢』第131巻第2号，日本評論社，2004年2月，55-73頁；「アンシエン・レジーム末期の偉人の称揚——ダンジヴィレの『奨励制作』偉人像と美術館の役割」『日仏歴史学会会報』第26号，2011年6月，3-18頁；「フランス革命前夜における美術行政と公衆——ダンジヴィレの『奨励制作』（1777-1789）を事例として」『西洋史学』，第242号，2011年，38-56頁ほか。

〔翻訳〕『ルーヴル美術館展——美の宮殿の子どもたち』（展覧会カタログ），共訳，朝日新聞社，2009年3月；『マリー=アントワネットの画家ヴィジェールプラン展』（展覧会カタログ），共訳，日本経済新聞社，2011年3月；ジャン=マリー・ペルーズ・ド・モンクロ『芸術の都パリ大図鑑——美術・建築・デザインの歴史』，共訳，西村書店，2012年8月；『シャルダン展』（展覧会カタログ），共訳，NHKプロモーション，2012年9月ほか。

安原 陽平 やすはら・ようへい

1979年生まれ。早稲田大学教育学部卒業，同大学院社会科学研究科修士課程修了。同博士後期課程を経て，現在，東京学芸大学特任講師ならびに聖学院大学非常勤講師。専攻は，憲法学，教育法学。

〔論文〕「公立学校教員志願者の『適性』と基本権保障に関する比較憲法学的考察——ドイツにおける憲法忠誠と就業禁止実践を参考として——」（『社会学論集』2009年，第13号），「公務員の勤務時間外における憲法上の権利保障に関する特殊性——特殊身分的公務員観から公職担当者という公務員観へ——」（『社会学論集』2011年，第17号）など。また共同研究として西原博史・佐藤晋平・葛西耕介・福嶋尚子・安原陽平「最高裁教育判例における教師像の展

開——学テ判決と「君が代」処分違法判決をつなぐもの——」（『教育行政学論叢』2012年，第32号）。

〔訳書〕西原博史・安原陽平「アイヴィンド・スミス『北欧諸国の違憲審査』」（『比較法学』2008年，第41巻第3号）。